

鳶(とび)柄抜き器の考案について

長野・黒姫製品事業所 小林 繁
" 中島 安美

はじめに

鳶を長期間使用していると、角度が変形したり、また、焼きが甘くなってくるため先掛けが必要となってくる。

この場合、柄付では作業が出来ないため柄を抜いてから行うが、この柄抜き作業は困難で、従来はブリー抜きなどを使用して実行してきた。

しかし、能率性、安全性等において問題が多く、常日頃からこの対応策を考えてきたところであるが、今回柄抜き器が完成したのでここに発表する。

I 従来の柄抜きの方法と問題点

1. 柄抜きの方法

- (1) 火であぶって、ハンマーでたたいて抜く方法
- (2) ギャブローラで抜く方法

2. 問題点

- (1) 手間を要する(1日20~30本)
- (2) ハンマーでたたくため、鳶の背が変形する。
- (3) 火であぶるため木質が弱くなり、折損等耐火性に欠けるとともに、危険である。

II 柄抜き器の考案

前述の問題を解消する目的で、今回考案した柄抜き器の着想は、日頃現場でトラクタのボルト抜き取りに苦勞したさい、自動車のジャッキを使用したところ、至って簡単に抜き取れたことに始まる。

そこで、この自動車用ジャッキを利用した柄抜き器の製作を目指し試行を重ねた結果、所期の目的に沿った製品を開発することが出来た。

利 点

- ① 携帯に便利である。
- ② 使用が簡単である。
- ③ 柄の再使用が可能で、安全である。
- ④ 鳶以外に鍬、つるはし等柄付用具への使用も可能である。

III 今後の課題

今回開発した本器は、ハンドルの上下作業による縦形構造であるが、作業の容易性を図るため、これを横形として回転ハンドル方式に改良する。(現在試作中)

おわりに

今回の柄抜き器は、現場の必要性から始めて取り組んで開発した成果であるが、多少なりとも能率性

の向上、安全の確保等事業実行上貢献するところがあれば幸せである。

今後も大きな改善にこだわらず、忘れられた小さな改善に目を向けて、さらに努力したいと考えている。

